平成 26 年度事業報告書

平成 27 年 6 月

一般財団法人　出版文化産業振興財団

表 2

目　　次

平成 26 年度事業報告……3

平成 26 年度収支報告書及び財産目録……39

平成 27 年度事業計画並びに予算……55

定款……63

P2

平成 26 年度事業報告

（平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで）

＜総務関係＞

1.　理事会・評議員会の開催

第 56 回評議員会並びに第 103 回理事会

月日：6 月 5 日　　場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案　「平成 25 年度事業報告案並びに決算報告案、監査報告」

第 2 号議案　「平成 26 年度事業計画について」

第 3 号議案　「任期満了による役員の改選並びに一部評議員の交代案」

◆古屋文明 副理事長→藤井武彦 副理事長（日本出版取次協会会長、トーハン社長）

安西浩和　常務理事→古屋文明 常務理事（日本出版販売会長）

藤井武彦　常務理事→正能康成 常務理事（トーハン専務取締役）

平尾隆弘　理事→松井清人 理事（文藝春秋専務取締役）

正能康成　理事→安西浩和　理事（日本出版販売専務取締役）

金田 徴　評議員→萬羽励一　評議員（日本出版販売書籍部長）

第 104 回理事会

月日：7 月 30 日　　場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案　「平成 26 年度事業」

第 2 号議案　「次回評議員会、理事会の開催」

第 57 回評議員会並びに第 105 回理事会

月日：11 月 27 日　　場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案　「平成 26 年度上半期事業報告並びに収支報告」

第 2 号議案　「平成 26 年度下半期事業」

第 3 号議案　「平成 27 年度子どもゆめ基金助成事業への申請」

第 4 号議案　「役員並びに評議員の一部交代案」

◆正能康成 常務理事→川上浩明常務理事（トーハン専務取締役）

西村達也 理事→中川清貴 理事（丸善 CHI ホールディングス社長）

伊藤 聡 評議員→粂井 健 評議員（日本地図共販社長）

和田年正 評議員→古市恒久 評議員（大阪屋取締役）

外山義朗 評議員→大谷敏夫 評議員（中央社常務取締役）

第 58 回評議員会並びに第 106 回理事会

月日：3 月 12 日　　場所：日本出版クラブ会館

議題：第 1 号議案　「平成 26 年度事業報告並びに決算見通し」

第 2 号議案　「平成 27 年度事業計画案」

第 3 号議案　「平成 27 年度収支予算案」

第 4 号議案　「役員並びに評議員の交代案」

◆ 古屋文明 常務理事→平林 彰 常務理事（日本出版販売社長）

山去賢二 評議員→小野田 裕 評議員（日教販取締役）

＜退任＞今村正樹 評議員（偕成社社長）

（以上、役職は当時）

事業報告

1. 生涯学習事業

①第 22 期「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

読書を通じた生涯学習・読書活動の推進のため、随時カリキュラムを更新し、常に「本」「読書」の魅力を掘り下げる多彩な講座内容を提供しています。

新カリキュラムとなって 8 年目の 26 年度も引き続き、監修にライター・書評家の永江朗氏を迎えました。執筆・講師陣には現在第一線で活躍されている方々にご協力いただきました。また、オプショナルツアーや希望者のみの装丁実習は、いずれも定員以上の申込があり、受講生の期待の高さがうかがえました。

平成 26 年 7 月から 27 年 2 月まで、6 ヶ月にわたるレポート作成とスクーリングを経て、2 月 2 日に行われた修了式では、作家の角田光代氏の記念講演（聞き手：永江氏）が行われ、「読書と私」と題して、読書の魅力や自身の読書体験についてお話いただきました。

修了式では、来賓の日本雑誌協会　石﨑孟理事長、日本書店商業組合連合会　舩坂良雄会長から激励の祝辞を賜りました。

第 22 期の修了生は 98 名です。宮城県から熊本県までの各地に、新たな JPIC 読書アドバイザーが誕生し、修了生は累計約 2,100 名となりました。（受講料 ： 一般 58,000 円　JPIC 賛助会員 53,000 円）

＜スクーリング スケジュール一覧＞

講座	日程	カリキュラム	講師
スクーリング①	2014 年 7 月 4 日（金）	開講式 総　論 JPIC 概要 読書の歴史 アドバイザー活動紹介	 永江 朗 中泉 淳 津野海太郎 都築照代 長﨑健一
スクーリング②	2014 年 7 月 5 日（土）	グループディスカッション 出版流通 編集者が語る本ができるまで	 永江 朗 佐藤誠一郎
オプショナルツアー	2014 年 7 月 6 日（日）	見学会（ユトレヒト、紙の博物館）	
オプショナルツアー	2014 年 9 月 5 日（金）	見学会（国立国会図書館、トーハン桶川SCMセンター）、 紙芝居講座（童心社）	
スクーリング③	2014 年 9 月 6 日（土）	雑誌編集 本の情報 グループディスカッション	雨宮秀樹 永江 朗
スクーリング④	2014 年 9 月 7 日（日）	印刷の歴史と現在 本のつくりや装丁について 書評の読み方書き方	中西秀彦 岡本幸治 豊﨑由美
オプショナルツアー	2014 年 10 月 31 日（金）	見学会（国立国会図書館） 〃（代官山蔦屋書店＆COWBOOKS） 装丁実習 書評講座	永江 朗 岡本幸治 豊﨑由美
スクーリング⑤	2014 年 11 月 1 日（土）	古書の世界の奥深さ 図書館の役割、国内外の図書館の具体例	樽見博 大串夏身
スクーリング⑥	2014 年 11 月 2 日（日）	身近な古本の楽しみ方 書店、本の町づくり 電子書籍	岡崎武志 南陀楼綾繁 亥角理絵 笈入建志 植村八潮
オプショナルツアー	2015 年 1 月 31 日（土）	見学会（山陽堂書店＆クレヨンハウス） 〃（古書音羽館、にわとり文庫、盛林堂書房）	永江 朗 岡崎武志
スクーリング⑦	2015 年 2 月 1 日（日）	乳幼児～児童期の読書傾向 児童文学とは グループディスカッション	佐々木宏子 角野栄子
スクーリング⑧	2015 年 2 月 2 日（月）	文字・活字文化の振興策 まとめ 記念講演 修了式、懇親会	肥田美代子 永江 朗 角田光代

※スクーリング毎に 10～20 人ずつ「本のはなし」（実習）と「レポートについての説明」（永江朗氏による）を実施。

＜第 22 期受講生　属性一覧＞

男女計	男性	女性
100	9	91

年代別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	不明
100	1	14	16	32	29	7	1

地域別計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
100	0	4	62	8	1	7	11	1	0	6	0

職業別	図書館	書店	出版社	出版関係	取次会社	公務員
	37	9	9	5	3	2
100	主婦	自営業	教員	学生	会社員	その他
	16	1	4	1	7	6

②「JPIC 読書アドバイザー養成講座修了生向け　ブラッシュアップ講座」

「JPIC 読書アドバイザー養成講座」修了者からニーズの高い「職域別・地域別の活動」「レベルアップ」のサポートのため、第 1 期～21 期まですべての修了生を対象に、長野県松本市で「ブラッシュアップ講座」を実施いたしました（参加者 43 名　於・ピレネビル）。

講師として当養成講座の監修を務めるライター・書評家の永江朗氏、ブックコーディネーターの内沼晋太郎氏を迎え、講義だけでなくグループに分かれての分科会や、代表者 3 名による「企画・実践している活動」の発表を行い、参加者との活発な意見交換も行われました。

③「JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）」の活動支援

平成 5 年より開講している「JPIC 読書アドバイザー養成講座」の修了生は、平成 26 年度末で約 2,100 名となりました。修了生は自主運営組織「JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC(ジャラック)）」を組織して、活発に活動しています。平成 21 年 11 月には、読書推進運動協議会創立 50 周年を記念した「野間読書推進特別賞」を受賞しました。

JRAC の主な活動としては、自主グループでの「学習会の開催」、「JRAC 通信の発行」「会員用ホームページでの情報交換」など、多岐にわたります。また全国には、身近な会員のつながりを活かす地域支部があり、交流しています。今年度は福井支部・岡山支部が新たに設立され、14 支部となりました。

JPIC としてもさらに JRAC の活動機会を広げるため、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」

での読みきかせ講義講師、講談社「全国訪問おはなし隊」や「スミセイおはなしひろば」でのボランティア向け学習会での講師など、主催・協力事業での講師のほか、各種団体開催の講師依頼や問い合わせにも対応し、おはなし会の読み手も依頼しています。
また、『この本読んで！』では毎号、JRAC 会員がおはなし会プログラムや新刊紹介などを担当し、読者から人気のコーナーとなっています。（JRAC 会員：657 名、26 年度末現在）

④各種読書講習会

JPIC 読みきかせサポーター講習会

読みきかせボランティアの育成を目的として、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」を平成 11 年より開催しています。絵本作家の講演と、JPIC 読書アドバイザーによる実技講習で、すぐ活動に生かせる講習会と好評。リピーターも多く参加しています。平成 23 年度より一般社団法人生命保険協会の協賛をいただき、一層内容を充実して展開しています。

（実施：16 ヶ所　参加者：1,578 名、参加費：1,000 円）

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会　場	特別講演講師	申込者数	参加者数
1	6 月 28 日	渋谷区	日本薬学会長井記念館	長野ヒデ子	187	147
2	7 月 13 日	秋田市	秋田テルサ	ひろかわさえこ	70	63
3	7 月 19 日	前橋市	群馬県民会館	とよたかずひこ	124	109
4	8 月 3 日	松江市	松江テルサ	山口マオ	82	73
5	8 月 9 日	神戸市	神戸国際会館 セミナーハウス	浜田桂子	166	96
6	8 月 24 日	新潟市	ガレッソホール	とよたかずひこ	98	86
7	9 月 14 日	鹿児島市	鹿児島商工会議所	ひろかわさえこ	83	74
8	9 月 20 日	福井市	国際交流会館	山口マオ	104	84
9	9 月 27 日	長野市	JA 長野県ビル	いとうひろし	105	93
10	10 月 12 日	名古屋市	ウィンクあいち	とよたかずひこ	173	145
11	10 月 19 日	福岡市	アクロス福岡	とよたかずひこ	165	123
12	11 月 16 日	福島市	コラッセふくしま	高畠純	103	94
13	11 月 29 日	青森市	青森県観光物産館 アスパム	浜田桂子	93	78
14	12 月 13 日	徳島市	とくぎんトモニプラザ	長野ヒデ子	106	68
15	1 月 18 日	大津市	ピアザ淡海	ひろかわさえこ	192	139
16	2 月 15 日	大分市	全労済ソレイユ	高畠純	124	106
合計					1,975	1,578

読みきかせサポーター実践講座～グループワーク編

21 年度から、読みきかせ活動の経験者を対象にスキルアップのための講座を開催しています。講義とグループワークを行い、おはなし会の運営方法、子どもの読書推進の現状などを幅広く学び、地域の読書推進活動の核となる人材を育成するための講座です（実施：16 会場、参加者：1,489 名、参加費 1,000 円）。26 年度から、グループワーク編として、より参加者間の交流を図る内容で、全国 16 会場で開催をしました。

■協賛：一般社団法人生命保険協会

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	申込者数	参加者数
1	7 月 13 日	静岡市	もくせい会館	127	108
2	7 月 27 日	和歌山市	ビッグ愛	77	64
3	8 月 9 日	千葉市	千葉商工会議所	120	85
4	8 月 24 日	宮崎市	JA AZM ホール	78	69
5	9 月 21 日	宇都宮市	栃木県総合文化センター	136	116
6	9 月 27 日	大阪市	大阪国際会議場	339	203
7	10 月 4 日	仙台市	ハーネル仙台	112	83
8	10 月 11 日	甲府市	山梨県 JA 会館	67	49
9	10 月 26 日	高松市	サンポートホール	98	75
10	11 月 15 日	横浜市	神奈川産業振興センター	237	87
11	11 月 23 日	津市	三重県総合文化センター	161	131
12	12 月 13 日	岡山市	岡山国際交流センター	105	87
13	1 月 24 日	富山市	ボルファートとやま	123	97
14	2 月 7 日	山形市	山形ビッグウイング	91	77
15	2 月 14 日	那覇市	沖縄県市町村自治会館	80	63
16	2 月 21 日	熊本市	熊本市国際交流会館	128	95
合　計				2,079	1,489

平成 26 年度末で「サポーター講習会」は累計 367 回、延べ参加者 34,934 名となりました（「JPIC 読みきかサポーター講習会」、「読みきかせサポーター実践講座～グループワーク編」のほか過去開催の「読書サポーター講習会」、「子どもの本講習会」を含みます）。

作者と語ろう！

平成 21 年から始まった中高生を中心とした 10 代向けの読書会は、人気の作家の一冊の

本について意見を交換し合い、作品への理解を深め、読書の幅を広げることを期待して開催しています。

二部構成で、第一部は課題図書を中心に、自由に本の話をする読書会、第二部は、作家の講義と質疑応答としています。毎回、作家との会話を楽しみにしている参加者が多く、熱心にメモを取り、質問をする様子がうかがえました。

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	作家	申込者数	参加者数
1	6 月 22 日	千代田区	東京堂書店　東京堂ホール	姜　尚中	73	51
2	9 月 28 日	京都市	イオンモール KYOTO　koto ホール	大崎　梢	29	21
3	2 月 22 日	新宿区	紀伊國屋書店新宿本店　ｲﾍﾞﾝﾄｽﾍﾟｰｽ	あさのあつこ	85	43
4	3 月 15 日	大阪市	阪急グランドビル　26 階会議室	いしいしんじ	28	24
合　計					215	139

10 代から出会う翻訳文学案内

東京大学教授・沼野充義先生をホストに、第一線で活躍する作家・翻訳者をゲストに迎え、10 代の若者と、若者に本を手渡す立場の方々を対象に、〈世界文学〉の視点で新しい読書の提案を行う講座を 4 回連続で開催しました。

25 年 11 月から 26 年 5 月までの講座内容をまとめた対談集が『それでも世界は文学でできている』として光文社より刊行されました。

■共催：光文文化財団

■協力：東京大学現代文芸論研究室、光文社

■子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動

	日程	開催地	会場名	ゲスト	申込者数	参加者数
1	10 月 12 日	千代田区	一橋講堂	池澤夏樹	197	113
2	12 月 20 日	新宿区	安与ホール	小川洋子	278	153
3	1 月 31 日	千代田区	ソラシティ	青山　南	188	85
4	2 月 28 日	新宿区	安与ホール	岸本佐知子	284	168
合　計					947	519

⑤さまざまな層への読書アプローチ

「辞書を読む」プロジェクト

25 年より「辞書・日本語の魅力」を積極的に発信する「辞書を読む」プロジェクトをスタートさせ、店頭活性化、読書推進へとつなげています。

第 3 回目となる書店店頭での「辞書を読む」ブックフェアでは、新たに KADOKAWA、大修館書店の協賛を得ました。これにより辞書出版社を中心とした出版社 11 社、取次会社の協賛・協力のもと全国 1,878 書店と前回を上回る規模でのフェアを開催。連動企画には、同じく 3 回目となる書店店頭の「飾り付け」、一般読者を対象とした「辞書川柳」の 2 つのコンクールを開催。どちらも大変多くの応募を頂いています（共に 27 年 5 月 10 日（日）〆切）。（協賛：岩波書店、旺文社、KADOKAWA,学研、くもん出版、三省堂、集英社、小学館、大修館書店、ベネッセコーポレーション、光文社、／特別協賛：大日本印刷）

また、フェア開催に併せ、子どもゆめ基金助成事業として全国にて関連イベントを開催しました。

	日程	開催地	会場名	講師、登壇	参加者数
1	4 月 27 日	中央区	朝日新聞東京本社	深谷圭助	63 組 165 名
2	8 月 9 日	旭川市	道北地域旭川地場産業振興センター	柏野和佳子	22 組 53 名
3	10 月 19 日	新宿区	日本青年館ホテル	金田一秀穂	92 組 137 名
4	2 月 22 日	松江市	くにびきメッセ	森川聡顕	17 組 42 名
5	3 月 7 日	熊本市	熊本市食品交流会館	深谷圭助	23 組 56 名
6	3 月 14 日	大阪市	CIVI 研修センター	深谷圭助	32 組 78 名
7	3 月 15 日	千代田区	一橋講堂　中会議室	三浦しをん、サンキューサツオ、瀧本多加志	270 名
8	3 月 29 日	墨田区	KFC　Hall&Rooms	柳家喬之助	23 組 53 名

大学生のよみとも倶楽部

「大学生のよみとも倶楽部」は、大学生によく読まれている本の作家を講師に招き、その作家の著書について小グループに分かれて自由に意見を交わします。大学生が講師にインタビューをする時間も取り、作品の誕生秘話や作家本人の読書体験など、話題に上った作

品や作家の著書をより深く楽しむことのできる話を聴くことができました。今年度は、東京都で朝井リョウ氏、京都府で森見登美彦氏を迎えて開催しました。（共催：大学生協連合、読売新聞社）

	日程	開催地	会場名	作家	申込者数	参加者数
1	8 月 3 日	杉並区	大学生協杉並会館	朝井リョウ	161	93
2	11 月 22 日	京都市	立命館大学 末川記念会館	森見登美彦	209	74
合　計					370	189

大学読書人大賞

19 年度よりスタートした「大学読書人大賞」が第 8 回を迎えました。大学文芸部（サークル）に所属する大学生有志で実行委員会を組織し、企画・実施のほとんどを行っています。

26 年 5 月 11 日に日本出版クラブ会館にて第 8 回の公開討論会を開催し、大賞は伊坂幸太郎著『マリアビートル』（角川文庫）に決定しました。

6 月 18 日には、日本出版クラブ会館にて、受賞作家である伊坂氏を招き、贈賞式を開催いたしました。学生 70 名のほか、出版・報道関係 15 名にお集まりいただきました。企画・実施内容の詳細は、http://www.jpic.or.jp/dokushojin/で公開しています。また、大学生実行委員によるブログとツイッターも逐次更新中です。

2. 調査研究事業

「消費税軽減税率適用」に関する意見広告

26 年 4 月からの消費税増税に向けて、25 年 12 月、新聞複数紙に「出版物に対する消費税軽減税率適用」に関する意見広告を出稿いたしました。

これは、「世界には、書籍・雑誌、新聞に対し『軽減税率』を適用している国が数多くあります。出版物は、民主主義の発展・維持に不可欠な公共財であり、情報や知識に課税す

ることは、その国の文化を衰退させることになると考えられているからです。私たちは、消費税増税により、とりわけ子どもたちの読書機会が損なわれることを強く懸念しています」という趣旨です。

26 年度も引き続き、軽減税率適用の必要性を広く理解していただけるよう、「JPIC 読みきかせサポーター講習会」など講習会やイベントなどでチラシを配布しました。

3. 情報提供事業

「JPIC NEWS LETTER」の発行

賛助会員の皆様に毎月 1 回、財団事業の報告のため「JPIC NEWS LETTER」を発行しています。掲載内容についてのお問い合わせ、財団運営に対するアドバイスをいただくなど財団事業へ反映させています。26 年度中に 11 号を発行し、通巻 168 号となりました。

JPIC ホームページ

財団事業の活動を幅広く紹介し、活動スケジュールなどをいち早く提供するため平成 10 年 2 月よりホームページを公開しています（http://www.jpic.or.jp/）。

JPIC 事業だけでなく、本に関するイベント情報も掲載。特に 4、5 月の訪問数が多く、年度当初に公開する「JPIC 読書アドバイザー養成講座」など講習会予定をホームページで確認する方が増えています。

また、講習会・イベントの参加申込ツールとして web との連動が好調です。web 申込者には「JPIC 読書推進メールマガジン」を配信し、全国のボランティアに講習会やイベント情報等を随時配信しています。（26 年度末　メールマガジン読者：12,095 名）

季刊誌『この本読んで！』の発行

JPICの読書推進運動への協力者との情報交換･情報提供のため､季刊誌「この本読んで！」を平成13年11月に創刊（事業協力：博報堂)。26年度に創刊50号を迎えました。

絵本や読みきかせ活動の情報を中心に、〈JPIC 読書アドバイザー〉選・おはなし会プログラムや毎号 100 冊の新刊絵本の紹介など、おはなし会に役立つ多彩な内容を見やすいカラー誌面で構成しています。毎号の表紙と中綴じ絵本は絵本作家の描きおろし作品を使用。また、読者から要望が多かった学校図書館や発達障害についての連載も掲載中です。

読書ボランティアの購読とともに、公共図書館・学校図書館からの購読が多く、9,000部発行しています。

発行形態	発行：年4回（5月、8月、11月、2月）　形態：A4変形・88ページ	
掲載記事	51号 14年夏号	特集：宇宙飛行士 山崎直子さんとめぐる2014年宇宙絵本の旅 おはなし会のワザとコツ こんにちは！絵本作家さん　岡田千晶さん
	52号 14年秋号	特集：昔ばなしのおもしろさの秘密／育ジイ・育バアの読みきかせ こんにちは！絵本作家さん　いまいあやのさん
	53号 14年冬号	特集：谷川俊太郎と絵本／国際アンデルセン賞 こんにちは！絵本作家さん　松成真理子さん
	54号 15年春号	特集：おはなし会で使えるイソップ物語／2014年の絵本を振り返る こんにちは！絵本作家さん　柳原良平さん
購読料	・定期購読（4冊）：4,320円（送料無料・税込） ・バックナンバー：1,200円（送料・税込）	

51号

52号

53号

54号

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

書店も図書館もない地域に読書機会を提供する「地域読書環境整備事業」で、自治体の

モデル読書施設開設・運営に協力しています。25 年度末に営業しているのは北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」で、25 年 10 月に開設 20 周年を迎えました。

これまでの設置は、5 市町村で、大分県耶馬溪町「わかば」（平成 4 年 5 月開設・平成 20 年 3 月 31 日閉店）、岩手県大船渡市「ブックワールド椿」（平成 4 年 10 月開設・平成 23 年 3 月閉店、開設時は三陸町）、北海道礼文町「Book 愛ランドれぶん」（平成 5 年 10 月開設）、福島県飯舘村「ほんの森 いいたて」（平成 7 年 2 月開設、平成 23 年 6 月 15 日休業）、長野県東御市「ブック童夢みまき」（平成 8 年 7 月開設、開設時は北御牧村・市町村合併により平成 23 年度で閉店）です。

東京電力福島第一原子力発電所の事故により全村避難している飯舘村とは、避難先での読書環境づくりに協力しています。※具体的な活動は、「⑥東日本大震災被災地支援」の項目をご参照ください。

②東淀川区絵本読み聞かせ事業

25 年度から引き続き大阪市東淀川区からの受託事業として、大阪府書店商業組合とおはなしボランティア「とことこ」・JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）関西支部・JPIC が協働し、地域における読みきかせの定着を目指しました。

26 年度は、①地域の登録ボランティアの募集・養成、②ボランティア派遣の拡充、③事業で活用する寄贈絵本の募集（「絵本バンク」）④主催イベントの実施、⑤広報活動、⑥区や大阪市が実施する子育て事業との連携などに力を入れました。

平成 27 年 2 月 22 日（日）には、「第 2 回 東淀川えほんまつり」を開催しました。絵本作家とよたかずひこさんによる講演会、大友剛さんによる絵本とマジックと音楽のコンサート、絵本展、登録ボランティアによる読みきかせ、事業報告などを行い、区の内外からの多数の来場者が、絵本の世界を楽しみました。

	イベント	日程	会場	参加者数
1	ボランティア養成講座・入門編	6 月 24 日	区民会館	31 名
2	絵本バンク・第 1 期	7 月 1 日～7 日	区役所	—
3	ボランティア養成講座・中級編①	7 月 29 日	区民会館	33 名

4	絵本バンク・第 2 期	10 月 1 日～7 日	区役所 出張所	―
5	ボランティア養成講座・中級編②	11 月 25 日	区民会館	25 名
6	第 2 回東淀川えほんまつり とよたかずひこさん講演会 大友剛さんコンサート 絵本バンク「絵本展」	2 月 22 日	区民ホール	358 名 300 名 延べ 564 名

●登録ボランティア数…123 名

●ボランティア派遣回数…107 回 / 子ども 3,219 名、大人 3,185 名参加（延べ数）

●絵本バンク寄贈数…531 冊

③第 15 回「上野の森 親子フェスタ」の開催

「2000 年子ども読書年」を記念して開催した「上野の森 子どもフェスタ」、翌年から「上野の森 親子フェスタ」として拡充開催しています。

平成 26 年度も、前年に引き続き東日本大震災の被災地支援プログラムとして開催し、売上の一部を被災地の子どもたちの読書環境を支援する活動に充当しました（開催：26 年 5 月 3 日～5 日）。

■主催：子どもの読書推進会議、JPIC

■後援:経済産業省、文部科学省、厚生労働省、国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）、国立国会図書館国際子ども図書館、東京都教育委員会、台東区、読売新聞東京本社、文字・活字文化推進機構

■協力：上野の山文化ゾーン連絡協議会、日本出版取次協会、日本児童図書出版協会、日本国際児童図書評議会

■協賛：住友生命健康財団

上野恩賜公園中央噴水池広場の広い面積を使用し、過去最高の出展者数 72 者・60 テントの出展にて「チャリティ・ブック・フェスティバル」を実施いたしました。また、同会場では常時、「全国訪問おはなし隊」（協力：講談社）キャラバンカー前特設会場やイベントテントにて出展各社協力によるおはなし会や紙芝居、出展社ブースでは絵本作家のサイン会などが行われ、親子連れに人気でした。

3 日間、晴天に恵まれ、売り上げは 3,245 万円超と、過去最大の盛況ぶりでした。

講演会も、東京国立博物館平成館大講堂を会場に 4 講演が行われ、約 1,200 名の親子・読者に読書の魅力やおはなしの楽しさを伝えました。

■ 出展社一覧　72 者（50 音順）

あかね書房	アリス館	いかだ社	イースト・プレス	一声社
岩崎書店	WAVE出版	絵本塾出版	絵本の家	えほんの杜
偕成社	仮説社	学研	KIBABOOK	金の星社
くもん出版	クレヨンハウス	好学社	佼成出版社	講談社
国土社	子どもの未来社	ゴブリン書房	小峰書店	さ・え・ら書房
朔北社	視覚デザイン研究所	集英社	主婦の友社	小学館
シルバーバック	少年写真新聞社	瑞雲舎	鈴木出版	誠文堂新光社
世界文化社	全国農村教育協会	大日本絵画	大日本図書	汐文社
玉川大学出版部	童心社	徳間書店	西村書店	日本児童図書出版協会
農文協	のら書店	パイインターナショナル	博雅堂出版	版元ドットコム
PHP研究所	BL出版	ひさかたチャイルド	評論社	ビリケン出版
風濤社	福音館書店	冨山房	フレーベル館	文溪堂
文研出版	保育社	星の環会	ポプラ社	ほるぷ出版
ミキハウス	民衆社	リトル・モア	理論社	ロクリン社
国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）		JPIC この本読んで		

■講演会　　平成館大講堂（定員 380 名）

日	タイトル	出演者（敬称略）	申込数	入場数
4 日 AM	「えほんのきもち」	なかえよしを（絵本作家）	668	247
4 日 PM	「武田美穂さんと絵本であそぼう！」	武田美穂(絵本作家)	829	318
5 日 AM	「JBBY 創立 40 周年記念トーク　第 1 弾 子どもの本のこれから　～未来への贈りもの」	角野栄子(児童文学作家) 高楼方子(児童文学作家) 富安陽子(児童文学作家)	1,163	370
5 日 PM	「『あらしのよるに』20 周年記念 きむらゆういちスペシャルトークショー」	きむらゆういち （絵本・童話作家）	881	261
		計	3,541	1,196

④「書店大商談会」への協力

前年度までの東京・大阪での書店商談会の好評を受け、9 月 11 日、札幌市・札幌パークホテルにて、第一回「北海道書店大商談会」を開催しました（出展社：109 社 110 ブース、来場書店人数：257 名、商談成立：1,136 件、30,286,938 円）。

前日にトーハン会と中央会、当日夕方には日販会と、取次各社がそれぞれ北海道総会を開催し、書店・出展社が当商談会に参加しやすい環境を整えるなど、まさに、道内出版業界挙げての一大イベントとなりました。当日は記録的豪雨による交通機関の乱れがあったものの、午前中から多くの書店人が来場し、活発に商談が行われました。

主催：同実行委員会

実行委員長：中尾邦幸・マル五中尾書店代表取締役社長　事務局協力：JPIC

第一回から第四回の開催に続き、10 月 23 日、東京ドーム・プリズムホールにて、第五回「書店大商談会」を開催しました（出展社：233 社・240 ブース、来場書店人数：936 名、商談成立：5,008 件、102,602,979 円／前回比 104.7%）。

第四回と比較し出展社が大幅に増え、過去最大規模での開催となりました。当日は来場書店人数に出展社、取次会社スタッフ、その他（見学）を合わせると 2,579 名の業界関係者が集い、活発な商談や情報提供が行われました。

主催：同実行委員会／各取次書店会、東京都書店商業組合、取次各社

実行委員長：奥村弘志・南天堂書房社長　事務局協力：JPIC

関西では 11 月 11 日、大阪市・グランフロント大阪にて、「BOOK EXPO 2014 秋の陣　～魅せろ！書店魂～」を開催しました（出展：224 社、227 ブース、来場書店：1,030 名、商談成立：6,031 件、108,403,339 円／前回比 145.6%）。

四回目を迎える「BOOK EXPO」は、会場をグランフロント大阪へ移し、フロアを拡張して開催されました。会場が広くなったことで落ち着いて商談できるとの声も多く、来場書店数、商談成立金額共に過去最大の 1,000 人、1 億円越えとなり、日本最大規模となりました。今年は新たに児童書コーナーが設けられ、絵本作家のサイン会ラリーやラッピング講座等イベントも行われ、ブース共に賑わっていました。昨年より引き続きコミックコーナーも大人気で、盛んに商談や挨拶の交わされる熱気あふ

れる商談会となりました。

主催：同実行委員会、世話人会代表：面屋龍延・日書連ブロック協議会会長、

実行委員長：堀博明・株式会社堀 廣旭堂専務取締役　事務局協力：JPIC

⑤東日本大震災被災地支援

震災から 4 年が経過し、国内の関心も少しずつ薄まってきており、支援のボランティア活動が減っているという被災地の現状があります。JPIC では、出版業界・自治体・団体・企業と協力しながら、中長期的な支援活動に取り組み続けます。

◆福島県飯舘村支援

原発事故により全村避難している福島県飯舘村に対して、読書環境の充実のための支援を続けています。

飯舘村では、家族が世代ごとにばらばらに避難している状況の中、子育て世代の支援事業に力を入れています。

12 月 18 日には、全村避難先の福島市内に村営の子育て支援センター「すくすく」を開所しました（建物は、JPIC の仲介により陸前高田市「にじのライブラリー」と同様、三井物産株式会社が寄贈）。開所式では JPIC 肥田理事長出席のもと、図書コーナーへ書籍を寄贈。絵本の他、村から希望のあった婦人実用書などが手渡されました。寄贈本は＜大震災＞出版対策本部、日本出版クラブ、日本児童図書出版協会などからも協力頂きました。

また、新生児に木のおもちゃと読みきかせ用の絵本をプレゼントする「ウッドスタート」&「ほんの森 ファーストブック」事業も継続して行っています。JPIC は、26 年度、60 名に 120 冊の絵本を提供いたしました。

◆「子どもたちへ＜あしたの本＞プロジェクト」

平成 23 年 5 月から「子どもたちへ<あしたの本>プロジェクト」として、日本国際児童図書評議会（JBBY）、日本出版クラブとともに東日本大震災被災地の子どもたちの読書活動

支援を継続展開しています。

主な活動として、①岩手県陸前高田市の私設図書館「にじのライブラリー」の運営、②宮城県気仙沼市・石巻市での「図書館バスの定期巡回」、③作家らの被災地訪問、④支援の必要な子どもたちへの布絵本や玩具寄贈などを行っています。

【平成 26 年度　子どもたちへ＜あしたの本＞プロジェクト　活動カレンダー】

4 月 11 日	「野馬追文庫」送付（南相馬市仮設住宅集会所への支援。毎月 1 回定期送付）	福島県南相馬市 36 か所
4 月 12 日・13 日	移動図書館バス　7&i グループ店舗定期巡回再開 ＜以降、第 2・4 土日、12 月末まで巡回＞	宮城県気仙沼市・ 石巻市の計 4 店舗
5 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市 36 か所
6 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市 36 か所
7 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市 36 か所
8 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市 11 か所
9 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市 15 か所
10 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市　9 か所
11 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市 10 か所
12 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市　9 か所
12 月 6 日・7 日	東松島訪問　講師：鈴木のりたけさん、さくまゆみこさん	東松島図書館
12 月 12 日	仙台訪問　講師：武田美穂さん、野坂悦子さん	岡田児童館
12 月 27・28 日	図書館バス年内最終運行（1 月～2 月は冬季休業、協力：セブン&アイ・ホールディングス）貸出冊数 2,405 冊（4 月～12 月）	気仙沼・石巻　計 4 店舗
1 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市 11 か所
2 月 7 日	南相馬訪問　講師：武田美穂さん、野坂悦子さん	じゅにあサポート かのん
2 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市 10 か所
2 月 15 日	陸前高田訪問　講師：サトシンさん	にじのライブラリー
2 月 28 日	南相馬訪問　講師：鈴木史穂さん、山内薫さん、撹上久子さん	のびっこらんど愛愛
3 月 7 日・8 日	大船渡・盛岡訪問　講師：三浦太郎さん、野坂悦子さん	シーパル大船渡 マリオス盛岡
3 月 11 日	「野馬追文庫」送付	福島県南相馬市　9 か所
3 月 14 日・15 日	移動図書館バス　7&i グループ店舗定期巡回再開 ＜以降、第 2・4 土日＞	宮城県気仙沼市・ 石巻市の計 4 店舗
3 月 18 日	郡山訪問　講師：垂石眞子さん、野坂悦子さん	郡山ニコニコ子ども館
3 月 21 日・22 日	福島・会津若松訪問　講師：工藤直子さん、なかがわちひろさん	コラッセふくしま 会津県立博物館
3 月 24 日	飯舘村訪問　講師：近藤信子さん	子育て支援センター すくすく

5. 受託事業・業務等

①読書普及活動協力事業

読書普及活動の活性化に向けて各社が取り組む各事業に対し、「JPIC 読書アドバイザー」「JPIC 読みきかせサポーター」「地元の読書サークル」にボランティア参加の募集を呼びかけ、読みきかせを開催する会場への読み手のコーディネートを行っています。

ア）全国訪問おはなし隊

講談社が創業 90 周年読書推進事業として平成 11 年 7 月よりスタートさせた「全国訪問おはなし隊」は、平成 25 年 9 月から 8 巡目を走行中です。全国の保育園、幼稚園、小学校、図書館、公民館、児童館、書店などをキャラバンカーで巡回し、地域の読書ボランティアの協力による絵本の読みきかせを通じて、子どもたちに本との出合いを提供しています。（26 年度：1,144 会場　累計実績：18,114 会場）

イ）おはなしマラソン

日本出版販売は、子どもたちに物語の楽しさを伝え未来の読者を育てていこうという試みから、書店読みきかせ会「おはなしマラソン」を平成 11 年 10 月より、全国で開催しています。JPIC では、ボランティアコーディネートの役割を担っています。（26 年度協力 9 店舗、累計実績：679 書店）

ウ）取協読書推進事業「読みきかせ会」

日本出版取次協会は、平成 12 年秋に創立 50 周年記念行事として「読みきかせ会の開催」を実施しました。平成 12 年度からの成果を踏まえて本年度も「読書推進」「書店店頭の活性化・増売」「第 4 土曜日は、こどもの本の日」の拡充のため、書店における読みきかせ会を開催しました。（期間：平成 26 年 11 月 29 日～平成 27 年 2 月 22 日の毎週土・日曜日、JPIC コーディネート担当実施書店：39 書店）

②「スミセイおはなしひろば」への協力

公益財団法人住友生命健康財団は、平成 13 年度より、読書をとおした子どもの健全育成を目的として、子どもたちが「おはなしや本の楽しさ」に出会う機会をつくる「スミセイおはなしひろば」を実施しています。

その一環である「おはなしひろばキャラバン」は、希望する保育園・幼稚園に、オリジナル絵本をプレゼントし、大型絵本や紙芝居を交えたおはなし会を届けるものです。読み手に地域の読みきかせサークルをコーディネートしておはなし会を開催。保護者や地域の方のご参加も見られ、家族・地域間のふれあいのきっかけをつくる役割も担っています。

26 年度は、3 地域（6～10 月埼玉県 さいたま市周辺、10 月山口県 山口市・下関市、11

月長崎県 長崎市・諫早市・佐世保市）で、11,320 名の園児が参加しました（26 年度実績：169 施設、累計実績：1,701 施設）。

③赤ちゃん本舗「赤ちゃんとママのおはなし会」への協力

育児用品などの販売を手がける「赤ちゃん本舗」は、家庭でのコミュニケーションの発展と読書推進を目的として、店舗内のスペースを利用し、乳児・幼児・保護者を対象とした「赤ちゃんとママのおはなし会」を実施しています。おはなし会を開催する店舗に、JPIC 読書アドバイザーや地域のボランティアをコーディネートしています。（開催：毎月約 35 店舗）

④朝日新聞社への協力

◆「オーサー・ビジット・プロジェクト」

「オーサー・ビジット」は、朝日新聞社の読書推進活動として 12 年目を迎え、これまでに全国の小・中・高等学校 368 校へ訪問をいたしました。

撮影：吉永考宏

※ベル＝ベルマーク版 3 回

	訪問日	訪問地	学校名	作家名
1	9 月 11 日（木）	岩手県	一関市立大東小学校	新沢としひこ（シンガー・ソングライター）
2	9 月 18 日（木）	北海道	苫小牧市立緑小学校	長谷川義史（絵本作家）
3	9 月 30 日（火）	秋田県	湯沢市立須川中学校	石川直樹（写真家）
ベル	10 月 22 日（水）	神奈川県	横浜市立矢向小学校	山崎直子（宇宙飛行士）
ベル	10 月 30 日（木）	京都府	南丹市立園部第二小学校	近藤良平（ダンサー・振付家）
4	10 月 30 日（木）	埼玉県	開智中学・高等学校	池上彰（ジャーナリスト）
5	11 月 4 日（火）	岩手県	大船渡市立日頃市小学校	桂文我（落語家）
6	11 月 11 日（火）	和歌山県	和歌山県立橋本高等学校	辻村深月（作家）
ベル	11 月 14 日（金）	兵庫県	宝塚市立南ひばりが丘中学校	尾木直樹（教育評論家）
7	11 月 17 日（月）	愛知県	名古屋市立緑高等学校	福本友美子（翻訳家）
8	11 月 27 日（木）	鹿児島県	さつま町立求名小学校	香川元太郎（絵本作家・イラストレーター）
9	12 月 2 日（火）	静岡県	静岡県立中央特別支援学校	盛口満（生物研究家）
10	12 月 2 日（火）	長野県	伊那市立東部中学校	宮西達也（絵本作家）
11	12 月 8 日（月）	島根県	松江市立津田小学校	假屋崎省吾（華道家）
12	12 月 10 日（水）	福井県	池田町立池田小学校	工藤直子（詩人）
13	12 月 15 日（月）	福島県	玉川村立須釜小学校	富安陽子（児童文学作家）
14	12 月 17 日（水）	沖縄県	那覇市立小禄小学校	鈴木のりたけ（絵本作家）
15	12 月 19 日（金）	愛媛県	愛媛県立伊予高等学校	仲道郁代（ピアニスト）

子どもたちに人気の作者が教室を訪問し、作者独自のユニークな授業や生徒との会話により、読書意欲を喚起することを目的としています。

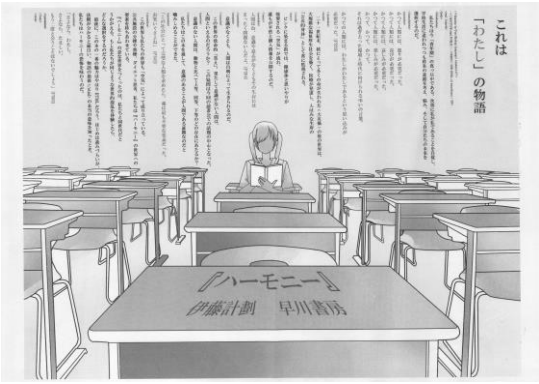
平成 26 年度は、ベルマーク運動に参加している学校に費用を一部負担いただくベルマーク版も含め、全国 18 校に訪問し、子どもたちの笑顔あふれる授業を展開しました。

JPIC は事務局として協力し、応募校の受付や作家と学校の訪問スケジュール管理・旅程作成などの役割を担っています。

◆第 5 回どくしょ甲子園

「どくしょ甲子園」とは、高校生を対象にした読書会コンクールで、仲間と読書会を開いて発見した「一冊の本の魅力」を、文章とイラストで一枚の紙（＝どくしょボード）に表現した作品を応募してもらい、優秀作品を顕彰します。

第 5 回は、396 枚の“どくしょボード”が全国から寄せられ、5 名の選考委員(＊)が審査し、最優秀賞ほか 5 作品に賞を送りました。



第5回最優秀賞

＊選考委員 : 秋田喜代美（教育学者）、佐藤江梨子（女優）、平田オリザ（劇作家・演出家）、道尾秀介（作家）、森 絵都（作家）

□最優秀賞　（1 点）
　明治大学付属明治高・古和田チーム　伊藤計劃 著『ハーモニー』
□優秀賞　（2 点）
　東京成徳大学高・松岡チーム　M.エンデ 著『モモ』
　滝川第二高・山本チーム　O.ヘンリー 著『賢者の贈り物』
□奨励賞　（3 点）
　東京都立工芸高・汲田チーム　いしいしんじ 著『トリツカレ男』
　湘南白百合学園高・折橋チーム　芥川龍之介 著『蜜柑』
　石川県立金沢錦丘高・南野チーム　本谷有希子 著『嵐のピクニック』

⑤「第 48 回造本装幀コンクール」への協力

一般社団法人日本書籍出版協会、一般社団法人日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」は、48 回目を迎えました。

「第 48 回造本装幀コンクール」（募集期間 26 年 1 月 31 日～3 月 31 日）は、126 者 334 作品の応募がありました。4 月 22 日に審査会を行い、文部科学大臣賞、経済産業大臣賞、東京都知事賞をはじめとする各賞（全 22 賞）を決定しました。入賞作品及び全出品作品は第

21 回東京国際ブックフェア（7 月 2 日～5 日、東京ビッグサイト）内の特設ブースにて展示され、7 月 4 日には同ビックサイト内会議棟にて授賞式を開催しました。また、入賞作品は、ドイツのライプツィヒで開催される“世界で最も美しい本コンクール”に日本を代表して出品した後、フランクフルトブックフェアで展示されます。“世界で最も美しい本コンクール”では、第 48 回の入賞作『MOTION SILHOUETTE』が銅賞を受賞しました。昨年に引き続いて日本の作品が受賞しており、日本の造本・デザインが海外でも高く評価されています。

⑥生命保険協会 読みきかせによる“家族のきずな”推進活動

生命保険協会は、平成 20 年度より、「読みきかせを通じた“家族のきずな”推進活動」を展開し、一般公募による絵本コンテストや施設・団体への絵本寄贈を行ってきました。26 年度は、第三次 3 ヵ年計画の 1 年目として、JPIC 読みきかせ講習会への協賛と読みきかせボランティア団体の支援のため「“家族のきずな”読みきかせ会セット」の頒布を行いました。

⑦「21 世紀活字文化プロジェクト」協力

読売新聞社が主管する「活字文化推進会議」主催の、全国各地の大学生による書評合戦「全国大学ビブリオバトル 2014～京都決戦～」に事務局として協力しました。874 名の予選出場者から 30 名が進出した決勝には、450 名の観客が集まりました。

⑧内閣府 国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力

内閣府では、平成 26 年度政府広報予算において、＜日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業＞が開始しました。日本の優れた書籍を英訳出版し、海外の大学図書館等を中心に寄贈する事業です。対象書籍は、各界各分野の第一人者である研究者・専門家の民間有識者 7 名からなる選定委員会にて選ばれました。

26 年度は、NTT アドと合同で事務局として事業の進行を担うとともに、JPIC は版元となり、JAPAN LIBRARY シリーズ第一弾として、3 月 27 日に 5 タイトルを翻訳出版しました。発行書籍は、32 ヵ国 900 ヵ所以上の大学図書館を中心とした研究機関、公共図書館等へと寄贈しました。

また、アジア学会年次総会（シカゴ）にブース出展し、本事業の PR と、より充実した事

業にするため、ヒアリングも行いました。ヒアリングの結果、書籍の有効な普及方法の提案や長期的視野を持つ安定した事業の継続などの要望も寄せられ、本事業の改善点が見えてくるとともにより一層の拡充が求められていることを把握することができました。

[26 年度発行タイトル]

- **Flower Petals Fall, but the Flower Endures: The Japanese Philosophy of Transience（Seiichi Takeuchi）**

原書：花びらは散る 花は散らない—無常の日本思想—（竹内整一／KADOKAWA）

- **If There Were No Japan: A Cultural Memoir（Roger Pulvers）**

原書：もし、日本という国がなかったら
（ロジャー・パルバース／集英社インターナショナル）

- **Listen to the Voice of the Earth: Learn about earthquakes to save lives（Satoko Oki）**

原書：地球の声に耳をすませて　地震の正体を知り、命を守る
（大木聖子／くもん出版）

- **Saving the Mill: The amazing recovery of one of Japan's largest paper mills following the　2011 earthquake and tsunami（Ryoko Sasa）**

原書：紙つなげ！彼らが本の紙を造っている（佐々涼子／早川書房）

- **Tree-Ring Management: Take the Long View and Grow Your Business Slowly（Hiroshi Tsukakoshi）**

原書：リストラなしの「年輪経営」（塚越寛／光文社）

スケジュール1

スケジュール2

スケジュール3

スケジュール4

スケジュール5

一般財団法人出版文化産業振興財団　理事・監事・顧問

理 事 長	肥田美代子（文字・活字文化推進機構理事長）
副理事長	相 賀 昌 宏（日本書籍出版協会理事長、小学館社長）
副理事長	石 﨑　　孟（日本雑誌協会理事長、マガジンハウス社長）
副理事長	藤 井 武 彦（日本出版取次協会会長、トーハン社長）
副理事長	舩 坂 良 雄（日本書店商業組合連合会会長、東京都）　※運営担当
専務理事	矢 作 孝 志
常務理事	高 井 昌 史（紀伊國屋書店社長）
常務理事	西 村 俊 男（日書連副会長、新潟県）
常務理事	平 林　　彰 （日本出版販売社長）
常務理事	川 上 浩 明 （トーハン専務取締役）
常務理事	野 間 省 伸（講談社社長）
常務理事	堀 内 丸 恵（集英社社長）
理　　事	篠　　弘（日本文藝家協会理事長）
理　　事	今 野 由 梨（生活科学研究所所長）
理　　事	高 橋 基 陽（光文社会長）
理　　事	荻 野 善 之（主婦の友社社長）
理　　事	松 井 清 人 （文藝春秋社長）
理　　事	大 竹 深 夫（大阪屋社長）
理　　事	山 本 髙 秀（栗田出版販売社長）
理　　事	風間賢一郎（中央社社長）
理　　事	河 野 隆 史（日教販社長）

理　　事　　安 西 浩 和 （日本出版販売専務取締役）

理　　事　　中 川 清 貴 （丸善 CHI ホールディングス社長）

理　　事　　松 信　　裕（有隣堂社長）

理　　事　　柴 﨑　　繁（日書連副会長、東京都）

理　　事　　藤 原　　直（日書連副会長、宮城県）

理　　事　　本 間 守 世（日書連理事、東京都）

以上 27 名

監　　事　　古 岡 秀 樹（学研ホールディングス取締役）

監　　事　　坂 井 光 雄（協和出版販売社長）

監　　事　　能 勢 正 幸（公認会計士）

以上 3 名

顧　　問　　上 瀧 博 正（トーハン元顧問）

以上 1 名

平成 27 年 3 月 31 日現在

一般財団法人出版文化産業振興財団　評議員

秋 田 貞 美（秋田書店社長）

下 川 正 志（家の光協会代表理事専務）

宮 本 哲 男（岩波書店取締役）

関 谷 幸 一（KADOKAWA専務取締役）

牧　　秀 幸（主婦と生活社社長）

清 水 康 史（昭文社取締役）

松 田　　宏（新潮社取締役相談役）

増 田 義 和（実業之日本社会長）

大 塚　　茂（世界文化社専務取締役）

鈴 木 一 行（大修館書店社長）

鹿 谷 史 明（ダイヤモンド社社長）

岩 渕　　徹（徳間書店社長）

溝 口 明 秀（NHK出版社長）

伊藤富士男（農山漁村文化協会専務理事）

大 橋 一 弘（博文館新社社長）

奥 村　　傳（ポプラ社代表取締役）

斎 藤 健 司（日本書籍出版協会常任理事　読書推進委員会委員長、金の星社社長）

出版社：以上 17 名

齊 藤 隆 巳（日本雑誌販売社長）

粂 井　　健 （日本地図共販社長）

谷 川 直 人（トーハン取締役）

加藤真由美（トーハン広報室長）

萬 羽 励 一 （日本出版販売書籍部長）

岩 本 幸 子（日本出版販売経営戦略室長）

古 市 恒 久 （大阪屋執行役員）

森 岡 忠 弘（栗田出版販売執行役員）

大 谷 敏 夫 （中央社常務取締役）

小 野 田 裕 （日教販取締役）

取次会社：以上10名

小 泉 忠 男（日書連副会長、東京都）

川 嶋 孝 文（日書連理事、埼玉県）

筒 井 正 博（日書連理事、神奈川県）

江 﨑 直 利（日書連理事、静岡県）

東 浦 澄 夫（日書連理事、山梨県）

片 岡　　隆（日書連理事、東京都）

亀 井 忠 雄（三省堂書店社長）

書店：以上7名

石 川 博 史（公文教育研究会取締役）

北 島 義 斉（大日本印刷副社長）

大 湊　　満（凸版印刷専務取締役）

濱 田 博 信（日本図書普及社長）

一般：以上4名

以上38名

平成27年3月31日現在

平成 26 年度賛助会員(285 社)

平成 27 年 3 月 31 日現在

出版社

あかね書房
秋田書店
朝倉書店
朝日新聞出版
明日香出版社
飛鳥新社
あすなろ書房
アリス館
家の光協会
医学書院
池田書店
医歯薬出版
一声社
1 万年堂出版
今人舎
岩崎書店
岩波書店
インプレス
WAVE 出版
潮出版社
枻出版
NHK 出版
エムオン・エンタテインメント
旺文社
大泉書店
宙出版
オーム社
オレンジページ
音楽之友社
偕成社
海竜社
化学同人
学研ホールディングス
岳洋社
風間書房
KADOKAWA
角川春樹事務所
金子書房
河出書房新社
かんき出版
協同出版
共立出版
桐原書店
近代映画社
金の星社
くもん出版
研究社
建帛社
コアミックス
好学社
恒星社厚生閣
佼成出版社
講談社
交通新聞社
交通タイムス社
光文社
国土社
小峰書店
ゴルフダイジェスト社
さ・え・ら書房
作品社
産業図書
三才ブックス
三省堂
サンマーク出版
産労総合研究所経営書院
CQ 出版
実業之日本社
実務教育出版
じほう
集英社
住宅新報社
主婦と生活社
主婦の友社
小学館
祥伝社
少年画報社
昭文社
神宮館
新興出版社啓林館
新星出版社
新潮社
晋遊舎
鈴木出版
スターツ出版
ステレオサウンド
すばる舎
星雲社
聖教新聞社
静山社
青春出版社
西東社
成美堂出版
聖パウロ女子修道会
誠文堂新光社
税務研究会
世界思想社教学社
世界文化社
セブン＆アイ出版
創元社
増進堂・受験研究社
第三文明社
大修館書店
大日本図書
ダイヤモンド社
大洋図書
大和出版
大和書房
高橋書店
竹書房
辰巳出版
玉川大学出版部
淡交社
筑摩書房
地人書館
チャイルド本社
中央經濟社
中央公論新社
中日新聞社広告局
汐文社
デアゴスティーニ・ジャパン
ディスカヴァー・トゥエンティワン
東京書籍
東京大学出版会
東京堂出版
東京ニュース通信社
童心社
東洋経済新報社
徳間書店
ドレミ楽譜出版社
南江堂
南山堂
二玄社
二宮書店
日本ヴォーグ社
日本カメラ社
日本漢字能力検定協会
日本経済新聞出版社
日本実業出版社
日本出版社
日本スポーツ企画出版
日本文芸社
農山漁村文化協会
白水社
白泉社
博文館新社
博友社
ぴあ
PHP 研究所
ビーエル出版
ひかりのくに
ひさかたチャイルド
日之出出版
白夜書房
評論社
フォレスト出版
福音館書店
冨山房
扶桑社
双葉社
ブティック社
プレジデント社
フレーベル館

文英堂
文化学園文化出版局
ぶんか社
文溪堂
文芸社
文藝春秋
文理
平凡社
ベースボールマガジン社
ベストセラーズ
ベネッセコーポレーション
ベレ出版
法学書院
法研
芳文社
ポプラ社
ほるぷ出版
毎日新聞社出版局
マガジンハウス
マキノ出版
三笠書房
みすず書房
光村教育図書
ミネルヴァ書房
モーターマガジン社
有斐閣
吉川弘文館
リイド社
リクルートコミュニケーションズ
理論社
ワニマガジン社
（出版社 194 社）

取次会社

大阪屋
協和出版販売
栗田出版販売
鍬谷書店
三和図書
中央社
東京即売
トーハン
日教販
日本雑誌販売
日本出版販売
日本出版貿易
日本地図共販
博文社
（取次会社　14 社）

書　店

旭屋書店
今井書店グループ
大垣書店
オリオン書房
紀伊國屋書店
金港堂
三省堂書店
須原屋
多田屋
八文字屋
丸善ＣＨＩホールディングス
有隣堂
リブロ
（書店 13 社）

書店組合

北海道書店商業組合
青森県書店商業組合
岩手県書店商業組合
宮城県書店商業組合
茨城県書店商業組合
栃木県書店商業組合
群馬県書店商業組合
埼玉県書店商業組合
神奈川県書店商業組合
愛知県書店商業組合
滋賀県書店商業組合
京都府書店商業組合
大阪府書店商業組合
兵庫県書店商業組合
鳥取県書店商業組合
広島県書店商業組合
愛媛県書店商業組合
福岡県書店商業組合
佐賀県書店商業組合
沖縄県書店商業組合
（書店組合 20 組合）

教科書供給所

北海道教科書供給所
群馬県教科書特約供給所
神奈川県教科書販売
愛知県教科用図書卸商業協同組合
（教科書供給 4 社）

一　般

愛知陸運
NTT アド
オー・アイ・エム・センター
お茶の水商事
活字文化推進会議
カンダコーポレーション
共同印刷
共立速記印刷
近代美術
工藤出版サービス
光和コンピューター
齋藤商店
三和
出版共同流通
生命保険協会
綜合教育センター
大日本印刷
太陽印刷工業
ダイワハイテックス
手島梱包輸送
天龍運輸
電通
東販自動車
トーハン従業員組合
図書館流通センター
凸版印刷
日販コンピュータテクノロジイ
日本出版販売労働組合
日本図書普及
博報堂
藤川紙業
文化産業信用組合
三井住友銀行神田法人営業第一部
三菱東京 UFJ 銀行神田支店
八木書店
りそな銀行九段支店
（一般 36 社）

関係団体

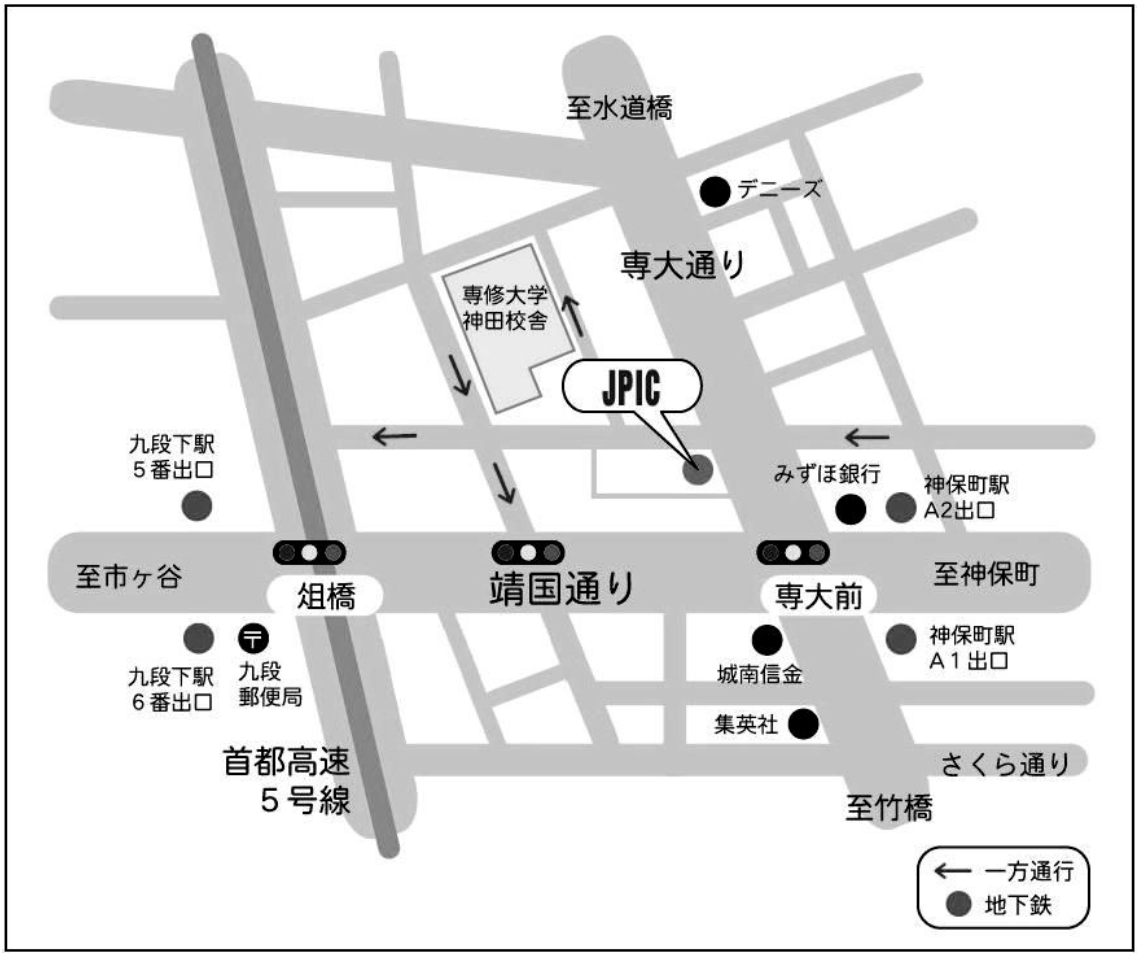
出版健康保険組合
日本児童図書出版協会
日本出版取次協会
日本書店商業組合連合会
（関係団体 4 団体）

以上、285 社

出版社	194 社
取次会社	14 社
書店	13 社
書店組合	20
教科書	4
一般	36
関係団体	4

財団案内図

■名　　称　　一般財団法人出版文化産業振興財団
■所 在 地　　〒101-0051
東京都千代田区神田神保町３丁目 12 番地３　神保町スリービル８階
TEL.03-5211-7282　FAX.03-5211-7285
http://www.jpic.or.jp/



交　通

九段下駅 ６番出口 徒歩５分（地下鉄／半蔵門線・東西線　都営／新宿線）
神保町駅 Ａ１出口 徒歩２分（地下鉄／半蔵門線　都営／新宿線・三田線）
水道橋駅 西 出 口 徒歩７分（J　R／総武線・中央線）
※ １階が CVS「サンクス」のビルです。

平成 26 年度収支報告書及び財産目録

P40

貸借対照表

正味財産増減計算書1

正味財産増減計算書2

正味財産増減計算書3

財産目録

収支計算書1

収支計算書2

収支計算書3

収支計算書4

財務諸表に関する注記1

財務諸表に関する注記2、収支計算書に対する注記1

公益目的支出計画

監査報告書

P54

平成 27 年度事業計画並びに予算

1. 生涯学習事業

①「JPIC 読書アドバイザー養成講座」開講

平成 5 年のスタート以来、「読書と生涯学習をコーディネートする」人材の育成を目的に毎年開講している。第 23 期を受講生 100 名、修了聴講生若干名で開講する。

②「JPIC 読書アドバイザー養成講座」修了生へのアプローチ

約 2,100 名となった修了者を対象に、「ブラッシュアップ講座」を 2 ヶ所で開催する。

③JRAC の活動協力

修了者の自主運営組織である「JPIC 読書アドバイザークラブ（JRAC）」の活動を側面よりサポートする。学習会や読書関連催事の共催も検討する。

④絵本・読みきかせ・読書ボランティア・中高生向け　各種読書講習会

「JPIC 読みきかせサポーター講習会」、「JPIC 読みきかせサポーター実践講座　グループワーク編」、10 代向け読書会「作者と語ろう！」、「10 代から出会う翻訳文学案内」など計 40 回を計画。子どもゆめ基金助成事業。

⑤さまざまな層への読書アプローチ

・「辞書プロジェクト」として、辞書を切り口とした読書推進事業を関係各社とともに展開。子どもゆめ基金助成事業としてイベントを開催予定。
・大学読書人大賞（同実行委員会との共催）、「大学生のよみとも倶楽部」（大学生協などとの共催）を年 2～3 回程度。
・主に JPIC 読書アドバイザーと協力した新たな読書推進活動の取り組みを検討する。

2. 調査研究事業

①書店活性化・デジタル化研究

関係省庁・団体などとの協力で、JPIC としての役割を積極的に果たす。また、消費税増税対応の販売促進策等を提案する。

②関係機関や在日外国機関との協力事業

消費税軽減税率獲得への取り組みや、対諸外国向けの出版活動の展開について検証、実践を目指す。

3. 情報提供事業

①JPIC NEWS LETTER

賛助会員をはじめ、関係各方面に JPIC の活動を案内・報告することを目的に、月 1 回程度発行。

②ホームページ運用、メールマガジン発行

読書関連催事等の情報提供ツールとして活用。メールアドレス管理「読書ボランティア」15,000 件を目標に促進。メルマガ会員を増加させ、他事業での DM 費の一層の減少を図る。

③「この本読んで！」発行

平成 13 年 11 月創刊、季刊（第 55～58 号、5・8・11・2 月末）、9,000 部発行。

4. 交流協力事業

①地域読書環境整備事業

福島県飯舘村、大阪市東淀川区等での協力事業を展開する。

また、「読書教育」「本・読書で町おこし」などの地域ぐるみの読書活動をサポートしていく。

②「書店大商談会」への協力

第二回「北海道書店大商談会」（9 月 15 日、札幌市にて開催予定）、第六回「書店大商談会」（10 月 19 日、文京区にて開催予定）、「BOOK EXPO 2015」（11 月 13 日、大阪市にて開催予定）の事務局として協力。

③東日本大震災復興協力事業

JPIC 単独としての活動のほか、日本国際児童図書評議会（JBBY）・日本出版クラブとの協力による「子どもたちへ ＜あしたの本＞プロジェクト」での活動を通じて、被災地の読書活動支援を行う。

5. 受託事業･業務等

①各社・団体の読書普及事業への協力

「講談社全国訪問おはなし隊」など、団体・企業の読書推進への協力、各種催事での図書販売　など。

②「スミセイおはなしひろば」への協力

平成 24 年度に全国一巡を完了。2 巡目、3 地域／愛知県、北海道、奈良県での実施。

③「赤ちゃんとママのおはなし会」への協力

アカチャンホンポ店内でのおはなし会を毎月 35 店舗程度の開催に協力。

④朝日新聞　読書推進事業への協力

朝日新聞社が主催する「オーサー・ビジット」（今年度は 6 回開催）「地球教室」などに協力。

⑤第 49 回「造本装幀コンクール」への協力

日本書籍出版協会と日本印刷産業連合会が主催する「造本装幀コンクール」に協力する。

⑥生命保険協会「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」への協力

生命保険協会公益事業「読みきかせによる“家族のきずな”推進事業」の第 3 期 3 ヵ年の 2 年度目に協力。講習会を 3 年で全国 2 周開催する。

⑦「21 世紀活字文化推進プロジェクト」協力

読売新聞社が主管する「21 世紀活字文化プロジェクト」に協力する。大学生を中心とした、青年層への活字文化推進活動で協力を検討。

⑧内閣府平成 27 年度国際広報「JAPAN LIBRARY」への協力

26 年度に開始した、＜日本の魅力発信に資する書籍の翻訳出版事業＞に協力する。今年後は 12～15 タイトルを発行予定。

収支予算書1

収支予算書2

収支予算書3

収支予算書4

定　　款

第１章　　総　則

（名　称）

第１条　　この法人は、一般財団法人出版文化産業振興財団（英文名 Japan Publishing Industry Foundation for Culture。略称「JPIC」）と称する。

（事務所）

第２条　　この法人は、主たる事務所を東京都千代田区に置く。

2　　この法人は、理事会の決議によって従たる事務所を必要な地に置くことができる。

第２章　　目的及び事業

（目　的）

第３条　　この法人は、出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進、出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究、人材育成、情報の収集及び提供等を行うことにより同産業の振興を図るとともに、読書活動の推進をはかることにより、我が国経済社会の健全な発展・国民の生活文化の向上・青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

（事　業）

第４条　　この法人は、前条の目的に資するため、次の事業を行う。

（1）出版文化産業及び読書活動に係る生涯学習の推進
（2）出版文化産業及び読書活動に関する調査及び研究
（3）出版文化産業及び読書活動に関する人材育成
（4）出版文化産業及び読書活動に関する情報収集及び提供
（5）出版文化産業及び読書活動に関する内外関係機関等との交流及び協力
（6）前各号に掲げるもののほか、本財団の目的を達成するために必要な事業

2　　前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。

第３章　　資産及び会計

（資産の構成）

第５条　　この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産は、この法人の基本財産とする。

2　　基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならず、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を得なければならない。

（事業年度）
第 6 条　　この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

（事業報告及び決算）
第 7 条　　事業報告書及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第 1 号及び第 2 号の書類についてはその内容を報告し、第 3 号から第 5 号までの書類については承認を受けなければならない。
（1）　事業報告
（2）　事業報告の附属明細書
（3）　貸借対照表
（4）　損益計算書（正味財産増減計算書）
（5）　貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
2　　前項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に 5 年間備え置くとともに、定款を主たる事務所に備え置くものとする。
3　　この法人は、剰余金の分配を行うことができない。

第 4 章　　評議員

（評議員）
第 8 条　　この法人に評議員 30 名以上 40 名以内を置く。

（評議員の選任及び解任）
第 9 条　　評議員の選任及び解任は、評議員会の決議をもって行う。

（任　期）
第 10 条　　評議員の任期は、選任後 4 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
2　　任期満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
3　　第 8 条に定める評議員の員数が欠けた場合には、任期の満了又は辞任により退任した評議員は、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

（評議員に対する報酬）
第 11 条　　評議員の報酬は、無報酬とする。

第 5 章　評議員会

（構　成）
第 12 条　評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

（権　限）
第 13 条　評議員会は、次の事項について決議する。
（1）　理事及び監事の選任又は解任
（2）　理事及び監事の報酬等の額
（3）　貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）並びにこれらの附属明細書の承認
（4）　評議員に対する報酬等の支給の基準
（5）　定款の変更
（6）　残余財産の処分
（7）　基本財産の処分又は除外の承認
（8）　その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開　催）
第 14 条　この法人の評議員会は、定時評議員会及び臨時評議員会とする。定時評議員会は、毎事業年度の終了後 3 ヶ月以内に開催し、臨時評議員会は、必要に応じて開催する。

（召　集）
第 15 条　評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が召集する。
2　評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び召集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

（決　議）
第 16 条　評議員会の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
2　前項の規定にかかわらず、次の決議は、評議員（決議について特別の利害関係を有する評議員を除く。）の 3 分の 2 以上に当たる多数を持って行う。
（1）　監事の解任
（2）　評議員に対する報酬等の支給の基準
（3）　定款の変更
（4）　基本財産の処分又は除外の承認
（5）　その他法令で定められた事項

（決議の省略）
第 17 条　理事が、評議員会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があ

ったものとみなす。

（報告の省略）

第 18 条　理事が、評議員の全員に対し、評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、その事項を評議員会に報告することを要しないことについて、評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その事項の評議員会への報告があったものとみなす。

（議事録）

第 19 条　評議員会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、議長並びに出席評議員及び理事の各 1 名がこれに記名押印するものとする。

第 6 章　役員等

（役　員）

第 20 条　この法人に次の役員を置く。

（1）　理事　20 名以上 30 名以内

（2）　監事　3 名以内

2　理事のうち 1 名を理事長とし、4 名を副理事長、1 名を専務理事、6 名を常務理事とし、2 名以内を業務執行理事とすることができる。

3　前項の理事長をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

（役員の選任）

第 21 条　理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2　理事長及び、副理事長、専務理事、常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 91 条第 1 項第 2 号に定める業務執行理事は理事会の決議によって理事の中から選定し、うち 1 名は専務理事とする。

（理事の職務及び権限）

第 22 条　理事は理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2　理事長は、この法人を代表し、法人の業務を執行し、専務理事及びその他の業務執行理事は、理事会において別の定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3　理事長、専務理事及びその他の業務執行理事は、毎事業年度に 4 ヶ月を超える間隔で 2 回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第 23 条　監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2　監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第 24 条　理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2　監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3　補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとする。

4　理事又は監事は、第 20 条に定める定数に足りなくなるときは、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の改選）

第 25 条　理事及び監事が次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

（1）　職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

（2）　心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（報酬等）

第 26 条　理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

（役員の損害賠償責任の免除）

第 27 条　この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 114 条第 1 項の規定により、理事又は監事が任務を怠ったことによる損害賠償責任を、法令に規定する額を限度として理事会の決議により免除することができる。

（外部役員の責任限定契約）

第 28 条　この法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 115 条第 1 項の規定により、外部理事又は外部監事との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任の限定契約を締結することができる。

なお、責任の限度額は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 198 条において準用する同法第 113 条第 1 項の規定による最低責任限度額とする。

（顧問）

第 29 条　この法人に、顧問 5 人以内を置くことができる。

2　顧問は、学識経験者又はこの法人に功労のあった者のうちから、理事会の推薦により、理事長が委嘱する。また解任については理事会において決議する。

3　顧問は、この法人の運営に関して理事長の諮問に答え、又は理事長に対して意見を述べる。

4　顧問の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

5　顧問の報酬は無償とする。

6　顧問の選任及び解任は、理事会において決議する。

第 7 章　理事会

（構　成）

第 30 条　理事会は、すべての理事で構成する。

（権　限）

第 31 条　理事会は、次に掲げる職務を行う。

（1）　この法人の業務執行の決定

（2）　理事の職務の執行の監督

（3）　理事長及び業務執行理事の選定及び解職

（召　集）

第 32 条　理事会は、理事長が招集する。

2　理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

3　理事会を招集する者は、理事会の日時、場所、目的、その他必要な事項を記載した書面をもって、理事会の日の 1 週間前までに、各理事及び各監事に対してその通知を発しなければならない。

4　前項の規定にかかわらず、理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、召集の手続きを経ることなく開催することができる。

（議　長）

第 33 条　理事会の議長は、理事長とする。

（決　議）

第 34 条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2　前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 197 条において準用する同法第 96 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があ

ったものとみなす。

（決議の省略）

第 35 条　理事が、理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなすものとする。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

（報告の省略）

第 36 条　理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知した場合においては、その事項を理事会に報告することを要しない。

2　前項の規定は、第 22 条第 3 項の規定による報告には適用しない。

（議事録）

第 37 条　理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2　出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名し、又は記名押印する。

第 8 章　定款の変更及び解散

（定款の変更）

第 38 条　この法人は、評議員会の決議によって定款を変更することができる。

2　前項の規定は、この定款の第 3 条、第 4 条及び第 9 条についても適用する。

（解　散）

第 39 条　この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由により解散する。

2　この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第 9 章　公告の方法

（公告の方法）

第 40 条　この法人の公告方法は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法とする。

第 10 章　事務局

（事務局）

第 41 条　この法人に事務局を置く。事務局の組織及び運営に関して必要な事項は理事会で定める。

第 11 章　雑　則

（委　任）

第 42 条　この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

附　則

1　この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。

2　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法第 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登記を行ったときは、第 6 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

3　この法人の設立当初の事業年度は、第 6 条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 25 年 3 月 31 日までとする。

4　この法人の最初の理事長は肥田美代子とする。

5　この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

秋田貞美	大橋一弘	川島孝文
柳楽節雄	坂井宏先	筒井正博
井上一夫	斎藤健司	江﨑直利
今村正樹	齊藤隆巳	田江泰彦
関谷幸一	伊藤　聡	片岡　隆
高納勝寿	谷川直人	小泉忠男
清水康史	加藤真由美	亀井忠雄
増田義和	金田　徴	石川博史
大塚　茂	岩本幸子	北島義斉
鈴木一行	和田年正	大湊　満
鹿谷史明	森岡忠弘	濵田博信
岩渕 徹	外山義朗	
溝口明秀	山去賢二	
伊藤富士男	土屋正三	

禁無断転載

平成 27 年 6 月

発　行　　一般財団法人出版文化産業振興財団
　　東京都千代田区神田神保町 3 丁目 12 番地 3

電　話　　03（5211）7282

印　刷　　太陽印刷工業株式会社